

基礎体力づくり手助け

栄養状態をチームで管理

県立病院内科医長

栗山 とよ子

入院時の栄養状態が悪いと、体の抵抗力が落ち、感染症にかかったり床ずれができていたりして、病気の回復を遅らせてしまうことはよく知られています。ところが現実には、患者さんの三〜四割が低栄養の状態に入

院され、一方で診療の場では検査や治療が優先されるため、限られた時間の中で主治医が栄養管理までも十分に行うことは困難です。そこで、さまざまな職種

のスタッフがチームを組み、それぞれの知識を出し合っ

て患者さんの栄養状態を支える、栄養サポートチーム(ニュートリション・サポート・チーム、NST)が活動する病院が増えています。NSTは一九七〇年に米国で始まり、現在では世界各地の病院で行われています。



師、検査技師、言語聴覚士には、抗がん剤や放射線治療に伴う吐き気、口内炎など、低栄養が疑われれば、体重の減り方、血液中のタンパク質の割合、消化機能の状態、さらには詳しい病気の種類や進行度合いなど、多方面から分析します。

継続的な観察が必要な患者さんには、チームで定期的に病室を訪問して栄養摂取状況を確認し、より適した栄養管理の方法や内容を主治医に提案します。入院時に栄養状態が良好であった患者さんでも、病棟の看護師や管理栄養士が定期的に栄養面の観察をしてお

り、入院後の状態低下を見逃さないシステムを構築しています。

県立病院はがん診療にも精力的に取り組んでいます。特にがん患者さんの中

が減れば、それに応じて治療内容も変更せざるを得ず、結果として十分な治療効果を得られなくなる場合があります。

極端に体力が低下したり、喉などの手術で口から食べられない患者さんには、鼻から細い管を胃などに通す経鼻経管や、おなかから胃腸に管を通す胃ろうや腸ろうで栄養補給します。これらが難しい場合は、静脈からの点滴も選択肢とし、さまざまな方法で体調維持・回復につながるよう取り組んでいます。

発病前の体重を取り戻し、または維持し、病気に立ち向かう基礎体力を養っていただくことが、NSTの重要な役目です。例えば食欲がないときには患者さんの嗜好に合わせた食事を勧めたり、飲み込んだりかむ

ことが難しい患者さんにはとろみをつけたり細かく刻んだ食事を提案します。

今後とも患者さんの早期回復を目指し、入院中の適切な栄養管理を行うとともに、地域の医療機関との連携を深めることで、退院後の健康管理にも貢献していきたいと考えています。

感染症起こす割合低下



患者の栄養状態をチームで管理する
福井市四ツ井二丁目の県立病院で